

平城宮の内側をのぞいてみると



第一次大極殿院・東櫓の遺構 圓立柱と礎石を混用する特異な建物跡で、柱穴も大きく、椽間建築とされています。平城宮最大の柱（径約75cm）が出土しました。

兵部省の整備 武官人事を担当していた役所。現代の道路が中央を横切っていますが、建物の柱や礎石を、約1mほど立ちあげる半立体復原という手法を用いて整備しました。



復原した東院庭園 天皇や貴族の宴遊の場を再現。建物は遺構にもとづいて復原し、庭園は石組など遺構そのものを見せながら整備しています。

第二次大極殿の遺構 「ダイコクの芝」とよばれて土壌が残っていたため、明治以降、大極殿跡と考えられてきました。ここに発掘のメスが立ったのは、1978年のことです。



第二次大極殿と内裏の整備 第二次大極殿とその周辺にある礎石建物は基壇を復原、内裏の圓立柱建物は、円柱状に割りあげたツグの植木で柱を表示しています。



造酒司の井戸 天皇や役人のための酒を造る役所にあった井戸で、その上に六角形の上層が建ちます。1つの柱根と5つの柱穴がわかりますか？



平城宮略年表

694年(持統8)	藤原宮に都を移す。
701年(大業1)	大宝律令を制定する。
707年(慶雲4)	元明天皇(女帝)が即位する。
708年(和銅1)	和銅開闢を發行する。
710年(和銅3)	平城京に都を移す。
715年(靈龜1)	元正天皇(女帝)が即位する。
724年(神龜1)	聖武天皇が即位する。
729年(天平1)	長屋王の変。
740年(天平12)	藤原広嗣の乱を鎮じ葛仁宮に都を移す。
742年(天平14)	紫香楽宮をつくる。
744年(天平16)	藤原宮を都とする。
745年(天平17)	紫香楽宮を都とする。
	平城京に都を戻す。
749年(天平勝安1)	孝謙天皇(女帝)が即位する。
752年(天平勝安4)	東大寺で大仏の開眼供養が行われる。
758年(天平宝字2)	淳仁天皇が即位する。
764年(天平宝字8)	藤原仲麻呂の乱。淳仁天皇に代わり孝謙上皇が再び称徳天皇(女帝)として即位する。
770年(宝龜1)	天智天皇の孫の光仁天皇が即位する。
781年(天徳1)	桓武天皇が即位する。
784年(延暦3)	長岡京に都を移す。
810年(弘仁1)	平城上皇、平城遷都を詔するが失敗する(紫子の変)。
864年(貞観6)	このころ、平城京の道路は田圃となる。



第一次大極殿院 1/100 模型 大極殿は天皇の即位、元日の朝賀など国家的儀式のときに天皇の座がおかれる建物です。回廊で囲まれた正面には京師の四門がひらき、その両側には東櫓・西櫓とよんでいる楼閣があったと考えられています。陛下はさらにその前にある広場に立ち並んで天皇を拝したのです。

※本文中の意は、平城京西院寺跡から出土した貝製完全金具をモチーフとしたものです(縮尺約1/4)。